

ロータリー・リーダーシップ・研究会 (RLI) に参加しよう！

RLI 日本支部委員長

2004-06 年 RI 理事

南園義一

※ 緒言

最近、Rotary News (2008 年 8 月号) の中で、クリフ・ダクターマン元 RI 会長は、ロータリーの世界で最も注目しなければならないことは、ロータリー創始後、100 年を経て、近年、社会構造も変化し、何よりも人や社会に対する意識が変わって来ていること、特に事業や職業の世界が激変していることを考慮すべきだと述べています。

そして、青少年や婦人層のロータリアン世代間の意識や感覚に大きなギャップが生じており、社会や文化に対する相互の認識や価値観が違って来て、ロータリー活動のあらゆる面で、複雑で矛盾した現象を呈していることを指摘しています。このような、異なった価値観や矛盾を埋めるためには、私達は、その要因である根本的な問題点を整理し、十分に話し合い、ロータリー世界の理解を進めない限り、今後のロータリーの発展は望めないと思われれます。

昨今、ロータリーに関して、十分な知識を持たないロータリアンが増え、話し合いも出来ず、十分に理解されないまま、ロータリーを去って行く人が多いことは、非常に残念なことです。そこで、私達は、本当にロータリーを理解し、ロータリアンとして活動するためには、クラブの底辺から、一人一人のロータリアンが、自発的に、自覚を持った話し合いをし、本当のロータリーを理解することが、まず基本的な課題だと考えています。

※ ロータリーリーダーシップ研究会 (RLI) とは！

丁度、アメリカから始まり、全世界に広まりつつある Rotary Leadership Institute(RLI) ・ロータリー・リーダーシップ研究会の活動は、まさに草の根の活動であり、RLI はロータリアンの知識を啓発し、また、将来のロータリークラブの指導者を養成するための全世界の地域と地区の連合体組織です。

RLI はロータリーの組織や活動に関して、正しく、深い知識を持ち、高い教育的な経験を備えた指導能力のあるロータリアンを支援するために活動しており、日本のロータリー米山記念奨学会と同じ様に、**RI が承認した多地区合同プログラム**です。

この RLI の活動は、私達日本のロータリアンにとっても共鳴するところが多々あります。私達は、日本の文化やロータリー活動の特徴を取り入れながら RLI に参加し、クラブやロータリアンの理解や指導力を高める活動を進めて行けば、必ず、日本のロータリー活動の発展に寄与出来ると思っています。

※ RLI の歴史

RLI は 1992 年にアメリカ・ニュージャージー州 (RI・第 7510 地区) にて、元 RI 理事のデビット・リンネット氏の発案で始められた研修組織です。

1994 年には、ニュージャージー州で、更に 3 つの地区が参加して多地区の活動になり、その後、1998 年には 31, 32 ゾーン (アメリカ北東部、中部太平洋岸、カナダの一部) まで広がり始めました。

そして、この RLI プログラムは 2001 年の国際協議会のスピーチの中で取り上げられ、指導力成功談として RI ウェブ・サイトに掲示されると共に、2002 年 3 月 RI ニュース・バスケットの記事になりました。同時に RI 理事会は、地区やクラブが RLI 及びこれに類似したプログラムに参加することを推奨するという決議を採択しました。

このようにして、RLI の活動は自然発性的に、現在、全世界にクラブサイドのロータリー研修組織として発展しています。現在の RLI は、全世界のロータリー地域に波及し、アメリカ本土のみならず、オーストラリア、バングラディッシュ、ブラジル、ブルガリア、カナダ、キプロス、インド、フランス、イスラエル。ネパール、レバノン、ヨルダン、日本、ニュージーランド、フィリピン、ポルトガル、台湾等、80 ヶ国、36 支部、153 の会員地区を擁して、数多くの国や地域で RLI の研修セミナーが実施されています。

※ RLI の研修方法

RLI の研修方法やカリキュラム内容については、RLI の原則や指導方法に従いますが、世界の各地域や国の文化や習慣の違いは尊重し、夫々の違いに応じた方法や内容を加えてよいことになっています。

研修セミナーの参加者は、希望者を募るのではなく、クラブの会長が指名することになっています。クラブ会長は、クラブ内の将来の指導者として成長する可能性を持った優れた素質を持ったロータリアンを個別に選んで、将来のクラブのリーダーになるという夢を持たせ、参加する経費はクラブが分担する位の意気込みを持って参加させることが望ましいとされています。

又、研修方法は、ロータリーをよく理解し、ロータリーに対する熱意を築き上げる為に、参加者にとって、もっとも都合の良い場所と時間に、講演や講義ではなく、斬新な教育方法を活用して、参加者による、グラス・ルートのディスカッション方式で行われます。

そして、カリキュラムは、常に経験を重ね、受講者の評価によって、その効果を見直す必要がありますので、時代の変化に対応する新しい情報を取り入れながら、カリキュラムは毎年変更されます。プログラムは 3 コースありますが、どのコースも項目内容は違いますが、本質的には同じで、参加者には全部のコースに出席することが奨励されています。

また、RLI の研修は、クラブや一人一人のロータリアンにロータリーを理解してもらい、ロータリーの組織や活動を知り、将来、ロータリー活動の指導力を発揮できる人に焦点を

当てるもので、特定のロータリーの役職にある人に焦点を合わせるものではありません。

※ 研修の基本的コース

研修の基本的コースでは、合計3日間のコースが提供されます。基本的コースには、パートⅠ、パートⅡ、パートⅢの部門があり、参加者は開催されているセミナーであれば、どの場所のコースでも参加できます。合計3つのコースが終了した時に、受講者にはRLIピンと終了証書が受与されます。次いで、ロータリーの様々な問題について深く研修する「卒業セミナー」を選択することもできます。

研修プログラムは、朝食会議、昼食、及び6-7つのセッションから構成されています。セッションのディスカッション・リーダーは、前もって、丸1日掛けてオリエンテーション・プログラムの講習を受け、RLIでのリーダーシップの方法について厳しい訓練を受けます。各リーダーは、地区のRLIシニア・リーダーや地区ガバナー等によって推薦されます。リーダーを選ぶ場合の選考基準は、議論を引き出す能力、即ち参加者の考えや意見を率直に引き出して討論し、前向きなパワーを引き出す力を重視します。

※ 支部の結成

RLIは、ロータリーの世界全体に、指導者開発計画を広げ、各地域のロータリアンの質を改善することが目的です。そのためには、全世界各地に支部を結成し、それを拠点にしてロータリアンの質的向上を目指そうとしています。従って、各地域での支部結成は大変重要なものと受け止められています。支部は、地域や地区によって異なるかもしれませんが、RLIの目的を促進するためには、考えや方法を共有し、お互いに他の支部とも協力して活動することが求められています。

そのために、支部は共通のロゴを使用するとともに、同じカリキュラムを使って、クラブの指導者の教育のために活動します。また、世界中の様々な地域や場所で、多くの考え方を共有しながら、地域的な特徴も理解し、活動に取り入れることが出来ます。支部のメンバーは、1地区でも、2地区でもよいとされていますので、複数の地区同士で協力して、効果を発揮するようにすることも良策でしょう。

実際には、RLIと支部との協定書の調印によって、支部が設立されます。1-3地区が支部の中核になるのが理想的ですが、将来、多地区に成長することも予測されます。最終的には支部は5-10位の地区で構成されることが期待されています。

支部協定書は、RIの多地区合同プログラム協定にならって、RI支部委員長と地区ガバナー、または地区ガバナーエレクトによって調印されることになっています。そして、調印された協定書をRLI本部が受領することによって支部が成立します。そして、RLI支部の活動に際して、夫々の地区ガバナーや地区指導者の理解・協力・支援は、欠くことの出来ない、最も重要な要素とされています。

※ RLI の会合及び経費

RLI にはシニア・リーダーの会合やカリキュラム改訂のための委員会等がありますが、特に、毎年、国際大会の際、本部並びに各地域や支部の指導者が集まって総会を開きます。今年のロスアンジェルス国際大会での RLI 総会には、私達夫婦と黒田正広 RIDE 夫婦とが参加しましたが、元 RI 会長や元 RI 理事そして各支部の指導者の方が多数出席され、ルイス・ジアイ元 RI 会長・財団委員長が特別講演をされ、意見を交換し、交友を深めました。

RLI 研修セミナーに要する費用は各自参加者負担となっています。各 RLI 支部は、地区やクラブそして参加者の方々と相談しながら経費を捻出することになります。また、各 RLI 支部は、毎年カリキュラムの改訂等や運営上の諸費用のために、1 支部当たり 100 : 00 ドルの年会費を RLI 本部に納入する規定になっています。

※ 日本での RLI 設立の動き

日本では、私と RI 理事同期の友人であるデビットリンネット RLI 委員長の働き掛けもあり、昨年（2007 年）11 月、東京でのロータリー研究会の際、RLI について話し合いの会を持ちました。

話し合いの会には、マイケル・マクガバン RLI 副会長が参加され、日本側は、黒田正弘、関場慶博、川尻政輝、成川守彦、川妻二郎、坂本俊雄、南園義一、の各 PDG が任意の形で参加致しました。会議は、主に RLI の組織と活動の現状について、マイケル・マクガバン RI 副会長から詳細な説明があり、特に研修セミナーの内容について具体的な話を伺いました。

※ RLI 日本支部の結成

この話し合いの会を受けて、2008 年 4 月に、黒田正広 RIDE がアメリカ・ニュージャージー州の RLI 研修セミナーに参加され、具体的な研修の現場を視察しました。帰国後、黒田正弘 RIDE から RLI の研修セミナー参加の具体的報告を頂きまして、漸く、日本でも RLI 日本支部の機運が生まれ、本年、2008 年 6 月に設立が決定しました。

日本支部の世話人は上述の 7 人の PDG の方々ですが、日本支部委員長として南園義一、副委員長黒田正広、事務局長川尻政輝の各氏が日本支部運営の世話をする事になりました。幸い、日本各地区に世話人の方々がおられますので、今後、日本各地区で RLI セミナーが活発に行われて、日本のロータリーが益々発展して行く事を心から期待しています。

※ 第 2750 地区・RLI 研修セミナー開催

さて、RLI 日本支部の設立を受けて、東京の RI 第 2750 地区では、2007・2008 年度の坂本俊雄地区ガバナー及び川尻政輝地区研修リーダーの御協力で、日本で第 1 回のロータリー・リーダーシップ研究会 (RLI) セミナーを、2008 年 6 月 2 日に国立オリンピック記念

青少年総合センターで開催しました。

RLI 本部からクヌット・ジョンソン副委員長が来日され、セミナー前日の6月1日に、セミナーでリーダーを務める方々（主に、第2750地区・ガバナー補佐の方々）とリーダーシップについてのトレーニングやディスカッションがあり、熱心な研修が行われました。

第2750地区のRLIセミナーは6つの分科会に分かれ、それぞれ5-6名から10名以内の少人数で全員が分科会に参加する形式でしたが、非常に活発な討論が行われ、参加の方々の自発的発言も多く、極めて効果的なセミナーでした。

参考までに、当日の各セッション・テーマをお知らせ致します。

- セッション1 リーダーシップとは何か？ その特徴
- セッション2 クラブを超えたロータリー・クラブと国際ロータリー
- セッション3 会員組織と退会防止
- セッション4 奉仕活動の計画と実行上の問題
- セッション5 ロータリー財団について考える
- セッション6 リーダーシップとチーム形成・クラブを活性化させる委員会構成

このセミナーは「パートⅠ」ですので、次回に「パートⅡ」、「パートⅢ」と続くわけですが、第2750地区では現・新藤信行地区ガバナーの御協力を得て、職業奉仕や倫理の項目を含めた第2回目の「パートⅢ」が10月25日に開催されました。

更に11月1日には、第2830地区で黒田正広 RIDE、関場慶博 PDG そして山崎淳一地区ガバナーのお世話で、RLI セミナー「パートⅠ」が青森・八戸市で開催され、デビット・リンネット RLI 委員長夫妻がマニラの研修セミナーから参加されて、盛会でした。

引き続き、年が明けますと、第2770地区、第2710地区、第2640地区等でRLIパートⅠセミナーが開催される予定になっています。

最後に、このRLI研修セミナーで最も大事な基盤は、一人一人のロータリアンの意見を自主的に引き出し、ロータリーの基本的な理解を深めると言う点です。従ってセミナー後の「Evaluation」つまり参加者の感想・評価が非常に重要になって参ります。

幸い、第2750地区のセミナーでは、研修結果は非常に好評で、次の研修コースにも参加したいと言う意見が大部分でした。

今後、各参加者がこのセミナーで得られた体験や成果を各クラブに持ち帰られてから、如何にクラブの活動に還元し、クラブ一丸となって、将来へ向けてロータリー活動を展開させて行けるかと言う点が今後の課題であろうと考えています。皆様のRLIへの参加と協力をよろしくお願い申し上げます。

ロータリーの友 2008年12月号(P22-25 写真入り)より